

- 問1 ある発電施設において、近隣の農家から集められた家畜の排せつ物や、林業で発生した間伐材などを原料として電力をつくる仕組みが導入されています。このような取り組みが、持続可能な社会の実現において重視されている理由として、最も適切なものはどれですか。 （2018年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 石油や石炭などの化石燃料をリサイクルすることで、限られた地下資源を節約できるから | 2. プラスチックや金属などの廃棄物を化学的に再利用する、高度なリサイクル技術の一環だから | 3. ウランなどの鉱産資源を効率よく利用することで、少量の燃料から膨大なエネルギーを得られるから | 4. 動植物からつくられる生物資源を燃料とするため、適切に管理すれば枯渇の心配が少ないから |
|---|---|--|---|
- 問2 火力発電の燃料として利用される液化天然ガス（LNG）が、石炭や原油と比較して環境負荷が低いとされる主な理由を選びなさい。 （2019年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. 一度使用しても再生可能エネルギーとして再利用できるため | 2. 燃焼しても温室効果ガスを全く排出しないため | 3. 排気ガスに含まれる硫黄酸化物が他の化石燃料より多いため | 4. 燃焼時の二酸化炭素（CO2）の排出量が比較的小さいため |
|--------------------------------|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
- 問3 近年、多くの地方自治体が住宅補助や就業の紹介といった「移住支援」を積極的に行い、都市部から地方への「Iターン現象」を促進しようとしています。自治体がこのような施策に取り組む、社会的な背景や目的として最も適切なものはどれですか。 （2023年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 都市部における待機児童問題を解決するために、子育て世帯を強制的に地方へ分散させるため | 2. 地方に残る伝統的な産業をすべて廃止し、都市型の新しいサービス業に一本化させるため | 3. 東京などの大都市の人口密度をさらに高め、経済活動の効率化を全国規模で進めるため | 4. 若年層などの流入を促すことで、過疎化や高齢化が進む地域の地方活性化につなげるため |
|---|---|--|---|
- 問4 1970年代から現代にかけて、東京都中央区の勝どきなどの沿岸部（ウォーターフロント）では、大規模な景観の変化が見られます。かつては工場や倉庫が密集していた地域が、現在では高層マンションや商業施設が立ち並び地域へと変貌した主な背景として、最も適切な説明はどれですか。 （2017年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 重化学工業のさらなる発展により、最新鋭の巨大工場が沿岸部に集中したため。 | 2. 産業構造の変化にともない、工場の跡地などが住宅地や商業地へと再開発されたため。 | 3. 都市部での過疎化を食い止めるため、政府が農地を宅地に転換する政策を進めたため。 | 4. 都心の地価が下落し、低層の戸建て住宅が広範囲に建設されるようになったため。 |
|---|--|--|--|
- 問5 日本の大規模な火力発電所の多くは、海の沿岸部（臨海部）に立地しています。燃料として石油や石炭、天然ガスなどを海外に依存している日本において、このような場所に発電所を建設する最大の理由として最も適切なものはどれですか。 （2023年 広島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 大型船舶が直接接岸でき、海外から輸入した燃料を効率よく運び込むため | 2. 内陸部の空港から航空機を使って、燃料を迅速に輸送できるようにするため | 3. 山間部のダムから流れてくる水の勢いを利用して、発電効率を高めるため | 4. 川の上流部に建設することで、都市部への送電距離を最短にするため |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
- 問6 日本の資源供給に関する1980年から2014年までの統計資料によると、石炭と石油の供給体制には大きな変化が見られます。このうち、1990年から2000年における石油（原油）の状況として適切な記述はどれですか。 （2017年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 火力発電における燃料としての原油消費が抑えられ、供給面では生産量と輸入量がともに減少した。 | 2. 原油の輸入量は増大し続けたが、石油化学工業での利用が主となったため、火力発電での燃料消費量は変化しなかった。 | 3. 国内の主要な油田での生産が軌道に乗って自給率が向上したため、原油の輸入量を大幅に削減することに成功した。 | 4. 原油の輸入量を1980年比で2倍に増やすことで、石炭に代わる火力発電の主役として原油が再評価された。 |
|--|---|---|---|
- 問7 1960年から2019年にかけての日本の輸入相手地域の変化について、統計的な傾向を説明した文として正しいものはどれか。 （2022年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. ヨーロッパ州とオセアニア州からの輸入割合の合計が、アジア州からの輸入割合を上回るようになった。 | 2. 1960年に輸入総額の約3割を占めていた北アメリカ州の割合が低下し、アジア州からの割合が約6割近くまで拡大した。 | 3. 1960年に輸入総額の約4割を占めていたアジア州の割合が低下し、アフリカ州からの割合が最大の輸入相手となった。 | 4. 北アメリカ州からの輸入割合は一貫して拡大し続け、2019年には輸入総額の半分以上を占めるようになった。 |
|--|---|--|--|
- 問8 日本のエネルギー生産の状況について、三重県、山口県、福岡県では総発電量に占める火力発電の割合が高いのに対し、岐阜県では火力発電の割合が著しく低くなっています。岐阜県においてこのような特徴が見られる地理的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 （2023年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 内陸部に位置し、大規模な太陽光発電パネルを設置するための広大な平坦地が確保されているため。 | 2. 急峻な山地と豊かな水源を活かした水力発電が、県内の電力生産の大きな割合を占めているため。 | 3. 日本海からの強い季節風を利用した風力発電が、沿岸部を中心に発達しているため。 | 4. 活火山が多く分布しており、地熱発電によるエネルギー供給が安定して行われているため。 |
|--|---|---|--|
- 問9 日本の貿易において、航空輸送は海上輸送に比べて輸出量が100分の1以下である一方、輸出額では約3分の1を占めています。このような統計上の特徴を持つ航空輸送を利用する主な理由と、適した製品の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 （2015年 長崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 振動が少なく安全性が高いため、石炭のように広大なスペースを占有する原料を運ぶのに適している。 | 2. 天候の影響を受けず計画的に運べるため、原油のように特定の保管設備が必要な資源を運ぶのに適している。 | 3. 輸送費用は高いものの輸送時間が短いため、電子部品のように重さの割に価格が高い製品を運ぶのに適している。 | 4. 輸送費用が安く大量輸送が可能のため、鉄鋼のように重くてかさばる製品を安価に運ぶのに適している。 |
|---|--|--|--|
- 問10 二〇一〇年度と二〇一九年度の日本の発電電力量の割合を比較した統計において、東日本大震災以前は全体の約四分の一を占めていたものの、震災後に安全性の懸念などから稼働が制限され、大幅に割合を減らした発電方式はどれですか。 （2022年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|---------|---------|----------|
| 1. 原子力発電 | 2. 火力発電 | 3. 水力発電 | 4. 太陽光発電 |
|----------|---------|---------|----------|
- 問11 日本の果物栽培をめぐる国内の状況と海外との関係について述べた文として、最も適切なものはどれか。 （2025年 徳島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 外国産の輸入果物との競合により輸出量は著しく減少しているが、技術開発により国内の生産量は急増している。 | 2. 先端技術の導入により労働力が不要となったため、生産量や輸出量は変動せず横ばいで推移している。 | 3. 国内での消費量が急速に拡大したため、国内の生産量と海外への輸出量の両方が大幅に増加している。 | 4. 農業事業者の高齢化などにより国内の生産量は減少傾向にある一方で、質の高さなどが評価されて海外への輸出量は増加している。 |
|--|---|---|--|